



【左】11月には、筑波山を間近に望むコースを探訪。最も多くの長屋門を訪れることができるコースだ。写真は中菅間地区の長屋門の1つ 【右上】12月に巡った沼田地区の長屋門 【右下】24年1月、神郡地区の町並み。この日は筑波大学の留学生も参加した



小泉の3棟を含む計8棟の長屋門と、泉の子育て観音、北条の街並みが含まれています。道中では地域の方々から貴重な情報を伺い、地域文化や古民家によるまち興しについても情報を収集しました。これらの情報を取り入れ、「佐、北条コース」(案)が完成しました。

i-iii.【11月11日】大貫、菅間コース

心地よい秋風の中、一般参加者15名、スタッフ6名の計21名が集まり、つくば市の中心部からコミュニティバスを利用して約40分、筑波山登山口に近いうるしじよバス停を出発地としました。このコースは、大貫エリアの3つの長屋門、中菅間エリアの7つの長屋門、上菅間エリアの7つの長屋門を巡る「長屋門みち」コースの中でも最も多くの長屋門を訪れるコースです。古民家を活用したパン屋や環濠のある家、船宮神社*1などを見学しました。また、地域の歴史や、なぜ長屋門がこの地域で密集して建てられているのか*2についても、道端で出会った地域の方々にお話を伺い、楽しく学びながら歩きました。以上の活

動により、「大貫、菅間コース」(案)が完成しました。

*1:船宮神社の創建は809年。村人が開墾の折に3m余の埋木を掘り起こしたものが、舟形をしていたのをお祀りしたのが始まりです。

*2:菅間地区では、薪だけでなく、菜種などの油を生産して商売にしていた家もあり、江戸へ向けた商売で財を成す家が多かったため、「大尽(臣)壺」と呼ばれるような豪華な屋敷が多く建てられていました。長屋門は、家の格を表す4つの要素——母屋、蔵、作業小屋、門——の1つであり、重要視されていました。

i-iv.【12月16日】筑波山口、酒寄コース

12月とは思えない暖かい気候の中、一般参加者6名とスタッフ5名、計11名で、つくばセンターから約55分の筑波山口バス停を出発地として、沼田3棟、下郷1棟、国松3棟(マップ上では2棟とされていましたが、当日現地で見学)、上大島3棟、酒寄7棟を巡りました。行程の途中では酒蔵や名物饅頭店、

柿の直売所、神社などに立ち寄り、約7kmの「筑波山口、酒寄コース」(案)を楽しんで歩きました。

i-v.【2024年1月6日】北条、筑波山神社コース

12月に続き1月も暖かい気候の中、つくばセンターからコミュニティバスを利用して約50分の筑波交流センターバス停を出発地として、筑波大学の留学生13名を含む一般参加者22名、スタッフ8名の計30名で歩きました。このコースでは、北条1棟、小沢2棟、漆所3棟、神郡2棟の長屋門を巡りつつ、地元で知られる菓子店やカフェ、古民家レンタルスペースなどに立ち寄りしました。全工程約7kmの「北条、筑波山神社コース」(案)を、参加者全員で楽しんで歩きました。

ii.もん泊Tシャツ、手ぬぐい及びイベント参加権の販売による拠点整備など支援費用の調達

◇成果

長屋門を含む伝統的景観の維持と継承活動の連鎖的広がりを促進するため、長屋門に民泊する「もん泊」事業において、古民家の清



自主企画のマルシェなどでオリジナルの「もん泊Tシャツ」を販売【上】。その収益を米倉の床材購入に充てて、改修を実施した【右】。床張り作業自体もイベントとして参加権を販売した



掃や改修工事の実績づくりを目指しました。このために、関連商品の制作・販売やイベントへの参加権の販売により、活動費用を調達しました。調達した資金を活用して、今年度はまず第1号として、つくば市栗原の郷邸の20坪の大きな米倉の1階の床を張ることができました。これにより、地域の活動拠点としての整備目標を達成しました

◇取り組みの内容

2023年6月には、Tシャツ60着を制作し、つくば市栗原の郷邸で開催されたマルシェに出品しました。このマルシェでは、「長屋門みちあるき」と「米倉床張り」のイベント参加権と合わせて、6万6000円を売り上げました。内訳はTシャツ14着で4万2000円、みちあるき5回参加権3枚で2万4000円となります。

この売上実績を踏まえて、6月下旬にはさらに110着のTシャツを制作しました。これらを10月や12月のマルシェを含む他のイベントで販売すると並行して、助成金予算の残金活用を検討しました。その結果、デザインを変更したTシャツ70着と、長屋門の配置のバラつきを示すデザインを施した「もん泊手ぬぐい」200枚を制作し、予算

内でのグッズ作成を完了しました。

3月上旬までのもん泊グッズおよびイベント参加権の売上高は、合計で28万8000円に達しました。この売上高は、郷邸米倉の床材(無垢杉)の購入費用である28万6000円をわずかに上回り、資金調達の目標を達成しました。

課題と解決策

今年度特に大きな課題となったのは、物価高騰に伴う資材の値上がりでした。米倉の床を改修するにあたり、床仕上げ材として用いるスギ無垢材の価格が前年よりもさらに上昇。一方、イベント参加費やTシャツなど物販グッズの売上も予想が難しく、活動内容に大きな影響を受けました。

また、長屋門みちのルートマップに表記する門の位置の特定が、所有者にご迷惑をおかけする可能性があるという課題については、マッ

プの悪用を避けるように長屋門の表現方法を工夫することや、住所氏名を登録したイベント参加者に限定して配布するといった運用で、当面对応することとしました。

今後の予定

長屋門みちについて対象エリアを市西部に拡大して、さらに3コースを取材。地域の歴史や文化、景観を盛り込んだマップを作成して、地域資源の再発見や維持・継承につなげたいと考えています。

引き続き、もん泊事業の拡大も予定しています。みちあるきイベントがきっかけとなり古民家の所有者との関係性を築くことができ、改修の相談など、地域景観の維持・継承に協力できる機会が増えました。

上記2つの活動は、2024年度も市民シンポジウムを開催して、広く報告・発信していく予定です。

特定非営利活動法人つくば建築研究会

2005年2月設立、同年11月法人化/メンバー数:22人/代表者:坊垣 和明(ぼうがきかずあき)
●〒305-0868 茨城県つくば市台町1-8-1
☎029-886-8039(永井 正毅) 📠029-886-8035 ✉info@tsukuba-arch.org
🌐tsukuba-arch.org/

私たちは、つくば市および周辺地域の資産である伝統的景観の維持・継承を通して、地域のさらなる景観の向上と発展・振興への寄与を目指しています。